



## 「まだ暫くは止められない」

吉松 秀一

2年間の福岡勤務を終えて東京に戻ったのが平成15年（2003年）の春、丁度55歳の時だった。東京着任早々に、監査グループにいた文ちゃん（高橋文人さん）が誘ってくれたのが、クマさん会に入会するきっかけとなった。

クマさん会ホームページを見ると、忘れていたことを思い出させてくれる。入会したその年の7月に、金時山に登り、9月には大山に登っている。しかも写真には細君と一緒に写っている。今では全く付き合い合ってくれないが、このころはわが細君も頑張っていたのだ。

大山から下ったその日は百ちゃん（川島百子さん）宅で一献傾けた。器が全部備前焼なのにびっくりした。俄然備前焼彙員となって、今では我が家で一献やるときも備前は欠かせなくなった。

当初は適当な靴を履き、もらい物のリュックサックを担いで登っていたが、どうもわが姿が様になっていないことに気づいていた。熊本さんから、「その靴だけはなんとかしたほうが良い」とアドバイスを受けて、なるほどそうだと合点がいき、靴も道具も少しずつ揃えていった。

特別な目標があって山を選んでいただけではない。たまたま堀さんが企画するプランに乗かって、北岳、間ノ岳をはじめとする南アルプスの山々を登っているうちに百名山標高ベスト10踏破に、あと奥穂高岳を残すのみとなっていることが分かり、これは何とかしたいものだと欲が出た。昨年（平成27年）10月にその奥穂高岳山頂に立つことができ、大いに気分が良かった。

熊本さんを初めクマさん会の皆さまのお蔭で、山の楽しみを知ることができたのは人生のめっけ物だった。しかも温泉、一献付きだから、まだしばらくは止められない。